

うまぬお父^{とう}が、野^やうつちてー、うぬ童^{わらび}やあとうから
あつちやくとう、馬^{んま}乗^まてい歩^あちよーる人^{ちゅ}ぬ、

「私^{わん}が行^んじ来^{ちゅ}くとう、いやー鍬^{くえ}、何^{いんぐえ}鍬^え落^うとうちやんち
並^{なら}びとーきよー」んちやくとう、うぬ安里^{あんり}ぬ童^{わらび}んでい
しが、かちくんちやくとう。

なー親^{うや}や心^し配^わさーに、

「なーいやーや殿^{とのさま}様^が、うまかい鍬^{くえ}いくち打^うちくでー
んでいちなー、なー大^で変^じなとーん」でいちやくとう、
「心^{しや}配^いしんそーらんき」んでい言^いちやんでいよー、童^{わらび}
るやんでいんどー、七^{なな}ち八^やちぬ。

んーなーやー、馬^{んま}乗^まている人^{ちゅ}や帰^けてい来^ちやくとう、
「いやーなー、鍬^{くえ}や、いく鍬^{くえ}落^うとうちやが」んちやく
とう、

「うんじゅが馬^{んま}ぬ、足^{ひさう}音^といくち落^うとうちめんそーちや

が」んちやんでい。

ここのお父^{おとう}さんが、畑^{はたけ}をうっている、その子^こが後^{あと}
を付^ついて歩^あいていると、馬^{うま}に乗^のつてかけている人^{ひと}が、

「私^{わが}が行^いつて来^きるまで、おまえは鍬^{くえ}を、幾^{いく}鍬^{くえ}打^うつたと
打^うつた土^{つち}を並^{なら}べておきなさいよ」と命^{いのち}じると、その安
里^{あんり}の童^{わらび}が、並^{なら}んでいる鍬^{くえ}跡^{あと}を掻^かき混^まぜたそうだ。

それで、親^{おや}は心^し配^わして、

「もうおまえは殿^{とのさま}様^が、そこに鍬^{くえ}をいくつ打^うつたかと
いうのに、もう大^で変^じなことだ」というと、
「心^{しや}配^いなさらないで下^{くだ}さい」と言^いつたそうだよ、子^こど
もがだそうだよ七、八^{はち}歳の。

それでもう、馬^{うま}に乗^のつた人^{ひと}は帰^{かえ}つて来^きて、

「おまえは、鍬^{くえ}を幾^{いく}鍬^{くえ}打^うつたかね」と言^いうと、

「あなたさまの馬^{うま}の、足^{ひさう}音^とはいくつ落^うとしてお帰^{かえ}りに

なりましたか」と言^いつたそうだよ。